３学期始業式講話

おはようございます。明けましておめでとうございます。

令和６年、２０２４年を迎えて、辰年の昇竜、飛翔といった景気のいい話をする予定でしたが、元旦早々の能登半島地震でちょっと難しくなりました。元旦の午後４時 10 分頃は皆さん何をしていましたか。私は奥さんの実家の浜松へ行く途中で、携帯電話が鳴るので、掛川・森のサービスエリアで停車したところ、能登半島で震度７の地震があったことを知りました。

思えば今から 29 年前、平成７年１月 17 日に阪神淡路大震災が、やはりこの時期に起こったことを思い出します。当日は未明のことで、今回同様の直下型地震でした。私はその時に地震があったことを知らず、朝伊東の学校へ行く途中の車中のラジオで知りました。阪神淡路大震災ではボランティアが活躍し、その後のＮＰＯ法人設立に繋がっていきました。

今回の地震は、本校においても皆さんの仲間が帰省先で被害に遭っています。年末に石川県や能登半島の実家に帰って被災し、今日も来れていません。来週は来れるといいのですが、気遣ってあげてほしいと思います。他人事ではない地震であり、何か我々でもできることを考えてほしいと思います。

こうしてみますと昨年の政治情勢から今年に入っても、世の中は大変なことばかりで、唯一スポーツがそのカンフル剤になっているように思えます。昨年は野球やサッカーだけではなく、バスケットボールやバレーボールがオリンピック出場を決めました。これらの試合を見ると、ちょうど 28、29 歳ぐらいの年齢の方々が活躍していることに気づきます。この年齢の人たちはいわゆるゆとり教育の世代でありますが、何よりも海外で活躍している選手が多いという特色があります。

海外で頑張っていられるということは、本人の資質はもちろんでありますが、しっかりコミュニケーションがとれている証であり、そこには語学の必要性を感じざるをえません。つまり英語を共通語とする語学の習得が、彼らの活躍を支えている要因でもあります。

そういう意味で皆さんにも今年は英語を頑張る年にしてほしいと思います。

私自身、英語が世界の共通語であることを実感した一人です。大学時代国内を旅して、それでは海外はどうしようと思った時に、偶々祖父が中国で亡くなっていた縁もあって、行き先を中国にしました。まだ北京や上海に直接入れる時代ではなく、香港経由で入国する時代でした。広大な中国大陸を歩いて、そこで得たものは英語が世界に共通語であるということを知ったことでした。第二外国語で中国語を専攻しましたが、食堂やホテル、トイレも中国語よりも英語さえ知っていればなんとかなるということを旅する中で実感しました。

英語は単語や英文を暗記するのが苦手だったので、正直あまり好きではありませんでしたが、教員になってアメリカに１か月行っていた時に、三週間ほど経た時期にふと聞き取りができているように感じました。それはホームステイをしていた時に電話が鳴り、周囲には家の人もいませんでしたので、しかたなく電話に出たところ、何とか聞き取れたからでした。

英語がさほど得意でなくとも話したり聞いたりすることが多少なりともできることに喜びを感じました。会話だって単語を羅列して話す程度ですが、通じることは喜びでもありました。

今、皆さんにとって英語がどれだけ必要か、特に３年生は来年どう必要になってくるのかということを考えてみてください。総合探究科から四年制大学で学ばれる方は、第一、第二外国語をそれぞれ選択しなくてはならないでしょう。就職する方は、おそらく外国人が職場にいるでしょう。今実際にコンビニへ行けば東南アジア系の方々がレジ仕事をしているでしょう。彼らも必死に日本語を勉強して会話しているわけで、そこに英語が入ったらもっと通じるでしょう。スポーツ系で世界に羽ばたく力をもった方は、それこそ海外生活で英語は必要です。

総合探究科で国内研修の折に九州の大学で英語漬けになった時に、英語を媒介にコミュニケーションがとれることを実感したでしょう。１年生は来年はおそらく海外研修ですから、英語をより学ぶ必要があるでしょう。

世界で活躍するスポーツ選手にならって、今年は英語力を磨いてほしいと思います。本校では、英語の授業で読む・書くから話す・聞くという方向にシフトしています。私も単語を羅列していた頃に、that とか How、What といった接続詞をつけてみたら、文法が後からわかってきた経験があります。

結びに、大変な年明けになりましたが、探究精神で乗り切っていきたいと思います。以上で講話とします。　　（令和６年１月５日、始業式）